

福知山市商工会 企業業況調査

令和7年7月調査結果(令和7年7月～9月分 調査対象 76件) (令和7年11月公表)

■調査対象

業種／従業員数	事業主のみ	2～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30人以上	合 計
建 設 業	4	7	5	2	2	0	20
製 造 業	0	6	4	5	1	1	17
卸小売業	5	10	0	1	0	0	16
サービス業	6	13	2	2	0	0	23
合 計	15	36	11	10	3	1	76

■経営動向

○製造業・建設業

	前年同期比		向こう3ヶ月	
	今回	前回	今回	前回
売上	-5.4	2.4	-21.6	0.0
採算	-13.5	-16.7	-27.0	14.3
仕入単価	-73.0	-66.7	-70.3	-64.3
従業員数	-18.9	-7.1	2.7	14.3
資金繰り	-21.6	-2.4	-24.3	-7.1
業況	-18.9	-33.3	-27.0	-19.0

【経営動向DIの算出方法】

「良い」とみる割合(%)から、「悪い」とみる割合(%)を引いてDIを算出
(「良い」と「悪い」の割合が同じ場合、DIは「0」)

製造業・建設業

★前年同期比・・・前回調査より経営環境が一層悪化しています。前年同期比で売上は7.8ポイント、仕入単価は6.3ポイント悪化しました。特に、従業員数は11.8ポイント、資金繰りは19.2ポイントと大幅に悪化し、人材と資金の確保が深刻な課題です。採算や業況は若干改善したものの、依然としてマイナス圏で厳しい状況が続いています。

★向こう3ヶ月・・・前回調査と比較してさらなる悪化が予測されています。ほぼ全ての項目でさらなる悪化が予測されています。特に採算は前回見通しから41.3ポイントの大幅な悪化が見込まれており、売上も21.6ポイント悪化する見通しです。コスト高の圧力は継続し、厳しい経営環境が続くと考えられます。

○卸小売業・サービス業

	前年同期比		向こう3ヶ月	
	今回	前回	今回	前回
売上	-23.1	-34.3	-12.8	-45.7
採算	-25.6	-37.1	-33.3	-40.0
仕入単価	-74.4	-54.3	-59.0	-60.0
従業員数	-2.6	0.0	0.0	2.9
資金繰り	-25.6	-31.4	-25.6	-28.6
業況	-46.2	-31.4	-51.3	-37.1

卸小売業・サービス業

★前年同期比・・・一部に改善の兆しが見られるものの、依然として厳しい状況です。前年同期比で売上は11.2ポイント、採算も11.5ポイント改善しました。しかし、仕入単価は前回調査から20.1ポイントと大幅に悪化しており、これは製造業・建設業を上回る深刻さです。売上・採算の改善にもかかわらず、総合的な業況は14.8ポイント悪化しています。

★向こう3ヶ月・・・売上-12.8ポイント、採算-33.3ポイントと、企業の販路拡大努力や消費需要の底打ち感を背景に改善が期待されます。仕入単価も-59.0ポイントと上昇圧力がやや緩和する見込みで、原材料価格の高騰が一段落する可能性があります。しかし、最も懸念すべきは業況が-51.3ポイントと現状からさらに深刻化する見通しである点で、売上・採算改善にもかかわらず、仕入単価の高止まり、人材確保難、需要の不安定さなど複合的な経営課題が重なり、総合的な経営環境の厳しさが継続すると予測されます。

前年同期比で全業種において厳しい状況が続いています。最も深刻な課題は仕入単価の大幅な上昇であり、製造業・建設業で73.0ポイント、卸小売業・サービス業で74.4ポイントと、いずれも70%超の上昇を記録しました。原材料・資材価格や商品・材料費の高騰が、経営を強く圧迫する主要因となっています。売上と採算(経常利益)は両セクターで改善の兆しがあるものの、従業員数の減少と資金繰りの逼迫が顕著です。向こう3ヶ月の見通しについても、両セクターともに業況のさらなる悪化が予測されており、仕入単価も上昇が続く見通しであり、コスト高の圧力は当面継続すると考えられます。

■今期直面している経営上の問題点 (業種別上位5項目 項目の後の()は前回順位(同順位あり)、業種の後の数字は回答数)

	製造業(45)		建設業(57)		卸小売業(41)		サービス業(56)		全体(199)	
1位	人件費の増加(3)	24.4%	仕入単価の上昇(1)	26.3%	仕入単価の上昇(3)	19.5%	仕入単価の上昇(1)	28.6%	仕入単価の上昇(1)	23.1%
2位	経費の増加(2)	17.8%	経費の増加(4)	14.0%	設備不足(4)	17.1%	経費の増加(2)	19.6%	経費の増加(3)	16.6%
3位	設備不足(5)	17.8%	人件費の増加(5)	12.3%	経費の増加(5)	14.6%	需要の停滞(3)	19.6%	需要の停滞(2)	12.6%
4位	仕入単価の上昇(1)	15.6%	従業員の確保難(3)	12.3%	需要の停滞(1)	12.2%	設備不足(5)	7.1%	人件費の増加(4)	12.1%
5位	従業員の確保難(一)	11.1%	需要の停滞(2)	10.5%	人件費の増加(一)	7.3%	人件費の増加(4)	5.4%	設備不足(5)	12.1%

経営上の問題点では、全業種で「仕入単価の上昇」が最上位を占めています。約また93%の企業が賃金に関して何らかの負担を感じており、賃上げ対応として「コスト削減」「受注量の増加や販路拡大」に最も多くの企業が取り組んでいます。世間の業況に目を向けても、多くの中小企業で人手不足が深刻化し、労働分配率の高さから更なる賃上げ余力が乏しい状況が報告されており、本調査の結果はこうした全国的な傾向と一致しています。コスト増と人材不足が構造的な経営課題であることが明確になりました。

この調査は、福知山市商工会会員事業所を対象として、景気判断や経営動向等を明らかにし、売上向上を目指した事業計画の策定、販路開拓や商品開発、事業承継、経営改善等経営力向上を推進する基礎資料として活用することを目的に実施しています。
次回は令和7年10月～12月の状況について、令和8年1月に調査する予定です。商工会の経営支援員が調査にお伺いしますので、調査対象の事業所様には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。